



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO, SUNRISE

T O S Y ' S

東京サンライズ・ワイズメンズクラブ

設立 1989年2月18日
チャーター認証日 1989年5月 2日
チャーターナイト 1989年5月28日

TOKYO YMCA YAMATE CENTRE
2-18-12,NISIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO
PHONE 03-3202-0321

第一例会：第2木曜日 午後5：00
(但し、12月・4月は山中湖センターで土日)
第二例会：翌々週火曜日 午後5：00

2026年7月号ブリテン 第425号

会長 大谷博愛
副会長 荻光彦
書記 今村由紀
会計 大森裕子
直前会長 小山久恵
担当主事 杉田裕樹

2026-2027 度主題 (Thema) IBC: 台北ユニオン DBC ; 東広島・京都プリンス
Our Motto 国際標語 「YMI — 人生を力づける」
国際会長 ヨハン・ヴィルヘルム・エルトヴィク 「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」(フィンランド)
アジア太平洋会長 ラチャン・マニカーン 「地域社会を力づけ、世代を鼓舞する」(タイ)
東日本区理事 山下 真 「挑戦なくして進化なし」(十勝)
あずさ部部长 大和田浩二 「親睦とCS活動を部の原動力として外へ飛び出そう」(松本)
サンライズ会長 大谷博愛 「クラブをオープンにして友だちの輪を広げよう」

7月第一例会のお知らせ

とき 7月9日(木) 17:00～
ところ 東京 YMCA 山手センター
かいひ 500円
◆プログラム
開会点鐘 会長
ワイズソング・ワイズの信条 一同
新年度キックオフ例会
協議・報告・連絡時刻 会長・各担当者
にこにこ・一分間スピーチ 出席者全員
閉会点鐘 会長

東日本区大会の報告

大谷 博愛

6月6日(土)、第29回東日本区大会が石巻市河北総合センター(ビッグバン)で行われました。本大会は、石巻広域、仙台、仙台青葉城、仙台広瀬川、もりおかの5クラブがホストとなり、二つのメインテーマを掲げ多彩なプログラムが展開されました。

その一つは、15年前の東日本大震災で、石巻は3千人を超える犠牲者を出しました。YMCA およびワイズメンズクラブは被災地支援にいち早く乗り出しました。そのために設置された対策本部が熊本、能登そして未来へと繋げていくために昨年発展的に解散し、新たなスタートとして我々の支援と復興の歴史を後世の記憶に残すために石巻で区大会が開催されました。今一つは、伊達政宗の命を受け慶長遣欧使節団を率いた支倉常長がたどった足跡を音楽でたどる壮大な歴史ロマンです。使節団は1613年石巻を出帆しメキシコ、キューバを経由してスペイン、ローマを目指しました。この史実を活用して瓦礫から立ち上がって未来へ踏み出す気持ちを込めたラテン音楽コンサートでした。



7月以降の予告

7月21日 第二例会・山手センター
8月1日 あずさ部評議会 場所：長野
8月20日 納涼会 場所：明福北京烤鴨店
銀座一丁目店(17:00～)

7月のハッピーバースデー

大谷博愛さん 7月19日

6月例会出席者

10名(出席率 83%)

東日本区アワーでは、我がサンライズは YMCA サービス部門で表彰され、グラ
ンドスラム賞(各種献金を
全て行う)も獲得しました。

晩餐会はほとんどのワイ
ズメンの世代には馴染みの
あるさとう宗幸オンステー



ジだったので、参加者は
300 人を超える大宴会で
したが一体となって大い
に盛り上がりました。前
日のゴルフ、前夜祭に始
まりエクスカーションに
至る一連のプログラムは、
一つ一つがしっかり企画
されたものだったので散
漫にならず楽しい大会で
した。

サンライズの出席者は
泉、今村、大森、小山会長、長津、松本、御園生、大谷の
計 8 人でした。

第 29 回東日本区大会エクスカーション に参加して

松本 ふさ

ワイズメンズ国際協会第 29 回東日本区大会に参加しま
した。多くの方々が参加され、大会は盛大に執り行われ
ました。翌日のエクスカーション(体験型観光)では、
東日本大震災の被災地の現状を見つめ、復興とは何かを
考える機会を得ました。

大勢でバスに乗り、南相馬市小高区にある「おれたちの
伝承館」を訪れました。現在の小高の街は、新しい建物
や整備された場所も多く、震災や原発事故の被害の跡は
以前ほど目に見えなくなっています。しかし、伝承館に
展示された当時の写真や資料からは凄惨な状況がひしひ
しと伝わり、被害の大きさを改めて痛感しました。

私は被災地に近い地域の出身ですが、幸いにも大きな被
害を受けることなく過ごしました。ただ、震災直後に弟
の運転で被災地を訪れたことがあります。その時に目に

した風景は、泥まみれの瓦礫が散らばるばかりで、本当
に何もかもが流されて街が消えていました。言葉を失う
ほどの衝撃でした。ニュースや写真で知っていたつもり



でしたが、実際に目の当
たりにした被害の規模の
大きさに、ただ恐ろしく
なったことを覚えていま
す。

今回、伝承館を訪れたことで当時の記憶が鮮明によみが
えりました。それと同時に、当時被害に遭われた人たち
は今どうしているのだろうか、元気に暮らしているのだ
ろうか、と思いを馳せました。故郷に戻った人もいれば、
別の場所で新しい生活を始めた人もいるはずですが、失っ
たものを少しずつ取り戻している人がいる一方で、どれ
ほど時間が経とうとも、すべてを忘れてたり、完全に元通
りになったりすることは難しいのではないのでしょうか。
街並みが新しくなっても、その場所で起きた出来事や
人々の心の傷が消えるわけではありません。私は伝承館
を訪れたことで、震災や原発事故の
被害だけでなく、その後を懸命に生
きてきた人たちの人生にも思いを
巡らせることができました。また、
先日の地震をきっかけに、災害は決
して過去の出来事ではなく、いつで
も我が身に起こり得るものだということも身に染みて感
じています。これからも、あの日に起きたことや現地で
暮らしていた人たちのことを忘れず、防災への意識を持
ち続けていきたいと思えます。



6 月第一例会報告

江原 修一

6 月 11 日第一例会を山手センター301 号室で行いま
した、因みに本日の会議は年度末の月の為恒例で年度末総
会を兼ねて開催いたしました。

通常の式次第通り、会長の開会点鐘で始まり、全員でワ
イズソング➡ワイズの信条を歌い、朗読致しました。

続いて大谷副会長より本日の会議は総会を兼ねている
と云う事。又 本日の出席者+委任状 1 通が有る事を持
って、規定通り本日の総会は成立していると云う発言

と、会員の拍手で総会は成立致しました。

次に会計責任者の大森メンより書面にて、本年度の決算報告の説明が有りました。これ迄（6月11日）の全員の了承は得られました。但し、行事としては、第二例会と会長慰労会が未開催です。この件に関しては、年度内に大きな変更が無ければ本日の会議の成立を生かす、と云う事に決定しました。

本年度を顧みて小山会長のお話が有りました。続いて来年度会長の大谷メンより来年度会長基本方針及び、改革すべき事項の簡単な説明が有りました。

杉田担当より YMCA 報告が有りました。



続いてテイスティング➡にこにこスピーチ➡閉会点鐘で終了致しました。

出席者：小山会長、大谷、大森、立田、御園生、柴田、今村、長津（委任状）、杉田担当主事、江原

会長就任にあたって

大谷 博愛

26-27 年度東京サンライズ会長に就任するにあたって、主題として「クラブをオープンにして友達の輪を広げよう」を掲げさせていただきました。これには、サンライズが主催する例会や行事に多くのワイズや友人に参加してもらって個々のイベントを盛り上げたいという願いとサンライズの活動を知ってもらおうという意味を込めております。

サンライズはチャーター以来、山中湖センターのサポート活動を行ってきましたが、メンバーの高齢化とともに山中ワークはできなくなってきました。とはいえ、今でも4月花見と12月クリスマスには山中湖センターに行っているの、多くのワイズに呼び掛けて盛り上がったイベントにできればいいと思っています。

また、今我々は山手クラブを受け継ぐ形で山手学舎を応援する活動をしております。これも立派なユース活動です。学舎 OB 会は舎生に YMCA 活動への参加を促しておりますし、サンライズとしてはワイズのユース事業に誘うなどさらに積極的な応援をしていきたいと思っております。

全ての活動の基礎は皆さんの例会出席です。皆様のご協力によって例会を楽しいものにして会長に与えられた仕事を果たしたいと思います。

ひよこのつぶやき vol.277

柴田 弘子

3年前、発症した帯状疱疹(ラムゼイ-ハント症候群)の後遺症で歩行も不自由になり、8割はリハビリを頑張ることで戻ると医師から言われました。2年ほど経つと、家の中は自由に歩けるようになり、何かしようと言う意欲も出てきました。複視の関係で好きな手芸は難しくなりましたが、日常生活には困りません。これからできることを楽しもうと思ったとき、したかったことを1つずつ思い出して紙に書いていくとほんの小さな事でも楽しみにになりました。娘から行きたい場所はないのと言われたとき、『特にはないけれど、子供の頃からの夢だったオーロラだけは見に行きたかった』と言った一言で、来年は絶対に行きましょと、本気で計画を立て始めました。ツアーの予約も早めに済ませ、切れたパスポートを取る、国内で試しに飛行機に乗ってみるなどひとつずつ課題をクリアにしていきながら、その過程で弱気になっ

て『無理かもしれない』と言うたびに『絶対に行きます』のあっさりした一言でまたなんとか前を向く。

自然を相手にするのですから見る事ができないかもしれません。残念に思うよりとにかく行ってみる、後はお天任せです。多分カナダのイエローナイフまで行くことができたことで満足するでしょう。

楽しもうとする姿勢と夢を忘れないだけで、人生は違って見えるような気がします。何事もなければ、秋には行けるかもしれません。ここまで書いて娘に見せたところ、『何もありません』と言。転ばず怪我せず健康に気をつけ実現させたいと思います。

6月第二例会報告

今村 由紀

6月の第2例会は、16日(火)17:00から、西早稲田「伊丹亭」において、小山久恵会長のご苦勞さん会を兼ねて行われました。

- ブリテン7月号の原稿の割り振り。
- 7月の第一例会の当番の確認。
- 8月の納涼会について、20日(木)昼食会に決定。場所は未定。

- ▶ 来期からの例会案内について→メールで案内を送る。
- ▶ 出欠は江原さんが LINE 「調整さん」 で確認する。

出席者は、江原、大谷、大森、小山会長、柴田、松本、あずさ部山口部長、タンポポクラブの小原さん、今村の計9名でした。

山中湖センターの様子

山中湖センター 荒木 暁

6月の梅雨と共に、山中湖村特有のジメジメとした季節となっております。草刈りをしてもすぐに伸びてくる草木の生命力には脱帽です。また、明け方に湖畔に出ますと深い朝霧の中にうっすらと雄大な富士山がそびえ立つ姿があります。その景色もまた感動的で自然の豊かさを肌身で感じ取ることができます。

この時期は各キャンプのリーダーたちが現地トレーニングとして集まってきます。夏のキャンプに向けて様々な確認を行い、本番をイメージしていきます。トレーニング中はキャンプソングが響き渡り、各プログラムの中でリーダー同士高め合う姿が見られます。子どもたちもキャンプを楽しみにしている以上に、リーダーたちもキャンプを待ち望んでいるのではないのでしょうか。私も昔はリーダーとしてキャンプに参加していたこともあるので、懐かしい記憶が蘇ってきます。

これから夏本番を迎えます。山中湖センターとしては、利用者の皆さんを不備なく迎え入れて、誰もが気持ちよく過ごせるように気配り、心配りをしていきたいと思えます。暑い夏がやってきます。その暑さ以上にリーダーたちの熱い気持ちを受け止めながらキャンプをバックアップしていきたいと思えます。

YMCA ニュース

山手センター 杉田 裕樹

▽「インターナショナル・チャリティーラン2026」 駅伝大会開催

例年9月に実施している障がい児支援を目的とした駅伝大会「東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン⇒」。40回目となる今年は、駅伝大会とオンラインのハイブリット開催となります。

駅伝大会は、9月26日に木場公園（東京都江東区）で開催、特設コース（約1.3km）を1チームで6周します。

オンラインのウォーキング大会は、11月下旬～12月上旬の期間で開催します。チャリティーラン開催40周年を記念して、今年のウォーキング大会は、全国YMCAで一斉に実施することになりました。

今年もぜひ多くの方にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

参加方法などの詳細はこちら。

<https://tokyo.ymca.or.jp/news/2026/06/20260622-3.html>

▽【参加者募集】「山中ユースキャンプ」中1～高3対象
(8/25～8/27) 第二報



東京YMCA山中湖センターは、1923年に開設された、日本で最初の野外教育施設です。

100年以上にわたりキャンプ事業を続けてきたYMCAは、「すべての子どもたちにキャンプ体験を」をスローガンに、多くの子どもたちへ自然体験や仲間との出会いを届けてきました。

今回開催する「山中ユースキャンプ」は、経済的なご事情により学びや活動の挑戦・継続が難しいご家庭の中高生を対象としたキャンプです。多くのご支援によって支えられ、参加費を抑えて実施いたします。

近年、中高生世代が自然の中で仲間と出会い、自分らしく過ごせる体験の機会は、決して多いとは言えません。

だからこそ私たちは、この年代だからこそ味わえる「本気で楽しいキャンプ」を大切にしたいと考えています。

山中ユースキャンプでは、富士



山麓の豊かな自然の中で、湖でのアクティビティやアウトドア体験、仲間と協力するプログラム、夜の語らいな

ど、日常から少し離れた時間を過ごします。初めて出会う仲間と笑い合い、挑戦し、時には失敗もしながら、自分の新しい一面に出会っていく----そんな時間になることを願っています。思春期という多感な時期に、自然の中で信頼できる仲間や大人と出会い、「自分はここにいて良い」と感じられる経験は、その後の人生を支える大きな力になります。このキャンプが、参加するユースたちにとって、新しい一歩を踏み出すきっかけとなることを願っています。

詳細はこちらから

<https://tokyo.ymca.or.jp/news/2026/06/20260605-1.html>

今後の主な行事予定

- ・「第21回世界YMCA大会」7月19日～7月25日（カナダ・トロント）
 - ・「キッズワールドカップ in 韓国」8月10日～14日（ソウルYMCA）
 - ・「外国にルーツのある子どものサマーキャンプ」8月21日～23日（山中湖センター）
 - ・「第40回インターナショナル・チャリティーラン」9月26日（都立木場公園）
- オンラインウォーキング大会：11月下旬～12月上旬

編集後記

ブリテン7月号をお届けします。

早いもので、今年も半分過ぎてしまいました。

今年は昨年と違い、梅雨の時期が長く、じめじめしてはいますが気温があまり高くなく、今のところなんとか過ごせています。

これからまた暑くなると思われまますので、どうぞ皆さま熱中症などに気を付けて、水分補給を忘れずにお元気で過ごしてください。

会費納入のお願い

○三井住友銀行 恵比寿支店 普通口座：6762355

○口座名 東京サンライズワイズメンズクラブ